

平成29年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の実情やニーズを踏まえた多様な学習機会の整備を図る。</p> <p>②生徒の学習意欲を向上させ、基礎的・基本的な知識の習得とそれらを活用する力を育む取組を充実させる。</p> <p>③総合的な学習の時間を充実させ、基礎学力の充実、キャリア支援を図る。</p>	<p>①異校種間連携の取り組みを進め、柔軟な教育課程の運用を図る。</p> <p>②生徒の能力や適性に合った授業方法や教材の工夫改善に取り組むことより、授業力向上を図る。</p> <p>③9分総合の指導内容や指導方法を充実させ、指導の体系化を図る。</p>	<p>①定通併修の連携を具体化し、生徒の柔軟な学びができる教育課程の検討を進める。</p> <p>②教科担当者間の情報交換を活発化し、定期試験問題の共通化、効果的な指導法の開発に取り組む。</p> <p>③9分総合の充実を目指した計画立案と実践を行う。</p>	<p>①定通併修による連携や、教育課程の構築を図ることができたか。</p> <p>②定期試験の共通化を図ることができたか。効果的な指導法の開発に取り組むことができたか。</p> <p>③9分総合を計画的に実践することができたか。</p>	<p>①定通併修による連携や、教育課程の構築を図り新たな教育課程を作成した。</p> <p>②年間を通して、定期試験の共通化がほとんどの科目で実施できた。</p> <p>②研究授業を6回実施して、研究協議を開催し、授業改善授業力向上に役立てることが出来た。</p> <p>③9分総合において、漢字、数学を中心にプリント学習に取り組み、基礎学力を身に付けさせた。</p>	<p>①定通併修科目の導入を行う。</p> <p>②まだ定期試験共通化を導入できていない科目について、一部共通化などを推進しすべての科目での共通化を目指す。</p> <p>③生徒の疲労感や他の連絡事項もあり十分な効果があったとは言えなかった。9分総合のプリントの内容や方法を改善し、より効果的な時間とする。</p>	<p>①定通併修等で生徒の学習の場やチャンスを増やすことはよいことであり、評価できる。</p> <p>②基本から学ぶことができ、基礎力をつけるような分かりやすい授業を行っていると感じられ、授業についていけない生徒への配慮がよくできているので評価できる。</p> <p>②学力のある生徒への進学対策・授業等も検討するとよい。</p> <p>②教員からの一方的な授業ではなく、生徒に考えさせる授業を行ってほしい。</p> <p>③9分総合の時間がより効果の上がる時間となるよう検討するとよい。</p>	<p>①定通併修による連携の準備が進み、新たな教育課程を作成することができたので実施する。</p> <p>②定期試験の共通化が進んでいるので、生徒の学習状況の課題を把握し、各定期試験前や試験中の質問学習への積極的な参加を促す手立てを講ずることが必要である。</p> <p>③9分総合では、プリント学習に取り組み、基礎学力を身に付けさせたが、より計画的・効果的に実施することが必要である。1学年の総合的な学習の時間の計画を全体的に見直す必要がある。</p>	<p>②定期試験の共通化を進め、授業で使用するワークシート等についても情報共有すると共に、共通試験対策プリントなどの作成も検討する。</p> <p>②生徒が基礎的な学力を身につけられるよう指導すると共に、進学を目指す生徒の学力向上方法について、今まで以上に教科会等で検討し共有して行く。</p> <p>③9分総合や1学年の総合的な学習の時間について、より効果の上がる内容や方法を総合的に検討して行く。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの抱える課題を踏まえたきめ細かな生活指導と相談体制を充実させる。</p> <p>②部活動を充実させ、生徒が有能感を感じられる取組を進める。</p>	<p>①生徒一人ひとりが抱える困り感やニーズについて全職員が共通した理解をもって、課題解決に向けて組織的支援・指導を行う。</p>	<p>①SSW等を活用した研修等を教職員等向けに開催したり、ケース会議を開催したりすることで、生徒一人ひとりが抱える課題を全職員が共通に把握し、SCやSSWを有効活用し、事案に対し適切に対応する。</p>	<p>①計画的に研修や会議等を行い、生徒一人ひとりが抱える課題を共有し、課題解決に向けて組織的な対応を行うことができたか。</p>	<p>①支援を必要とする生徒の課題解決に向けてグループと学年団が協力し迅速に粘り強く対応にあたり、SCやSSWを有効に活用し、研修会を4回実施し、適切に事案に対応した。</p>	<p>①担任や学年団で把握しにくく、対応が難しい生徒の課題に対して、外部機関との連携をより深め、どのように協力し・活用していくか、情報をどのように共有していくかが課題である。</p>	<p>①支援を必要とする生徒について、きめ細かく粘り強い指導ができているので評価できる。生徒の学校生活等が充実するよう、一人ひとりへの個別支援を継続してほしい。</p>	<p>①問題を抱える生徒について、全職員間で共通理解を図り、対応し、研修会を実施することで課題を共有し、組織的な対応を行った。今後も、支援を必要とする生徒に対して、SCやSSWと連携をとりながら、より適切な対応をする必要がある。</p>	<p>①SCやSSWとの連携において、出勤日数や時間が限られているため、事態が変化してしまうこともあり、迅速な連携の在り方を検討して行く。</p> <p>①学年会での情報共有やSSWとのケース会議の結果を、どのようにして実際の指導により迅速かつ継続的に反映させて行くかを検討する。</p>

3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの自己実現を目指した体系的なキャリア教育を推進する。	生徒のキャリア意識を高めるため、4年間を見通した組織的な進路指導・教科指導を行い、進路決定、進級・卒業につながる教育活動を推進する。	キャリア教育実践プログラム(1～2年目)やシチズンシップ教育(1～3年目)を充実させ、組織的・系統的なキャリア支援体制で、進路指導に取り組む。	進路決定、進級・卒業に対する生徒の意識を高め、進路実現につなげることができたか。	進路ガイダンスを昨年より1回多く、3回実施し、かなテクカレッジ東部校見学会を7月に新たに実施し、生徒の進路意識を高めた。	ガイダンスの内容や進路指導ブースの活用方法を更に工夫し、学校見学を生徒を引率して、さらに進路意識の向上を目指す。また、若者サポートステーションやMe-net等と連携して情報交換会を開催し、系統的支援を継続する。	多様な進路希望者に対して、きめ細かく時間をかけて対応しているので評価できる。進路未決定者が減るよう、キャリア指導を継続してほしい。また、進学希望者が増えているようなので、生徒の希望に応じた、進路指導や学習指導を行ってほしい。	校内の進路指導ブースを活用し、進路ガイダンスや総合学習の時間を利用して、生徒の進路に対する意識を高めた。3学年で希望ヶ丘高校(定時)型インターシップを実施することで、進路意識をさらに向上させることを目指す。	進路ガイダンスを継続し、生徒の進路意識を一層高めるため、ガイダンスの内容や進路指導ブースの活用方法を更に工夫し、進路決定者が増加するよう、進路意識の向上を目指す。更に、各学年が協力しつつ進路指導を工夫し、積極的に勉強に取り組んでいる生徒に対する指導方法も検討する。
4	地域等との協働	保護者や地域に信頼される学校を目標として、学校行事や地域貢献活動を通じた開かれた学校作りを推進する。	保護者や地域住民等と協働・連携した教育活動を展開し、ホームページや学校説明会等により広報活動を積極的に展開する。	地域貢献活動やボランティア活動への生徒の参加を積極的に支援し、より多くの情報発信を行う。	地域貢献活動・ボランティア活動への参加意識が高めることができたか。学校説明会やホームページ等の活用により、情報公開をより進めることができたか。	地域貢献活動を実施し、昨年度より10名多い、57名の生徒が参加した。校外で説明会を積極的に行い、毎月ホームページを通して新しい情報の発信ができた。保護者がPTA活動の一環として、PTA社会見学、文化祭・地域貢献デー等に参加した。	学校と地域の良好な関係を築くために、どのような形で地域と連携していくかを更に検討して行く。PTA活動が活性化することを旨とし、活動内容等を工夫し、PTA社会見学や学校行事等において、より多くの保護者の参加を目指す。	PTA活動が活発化するよう、活動を会員にもっと周知した方がよい。プリントだと、ほとんど伝わらないので、マチコミメールを利用して案内すると良いのではないか。希望の定時に入学してよかったという卒業生の声が多く、生徒と教員の良い関係があり、評価できる。	地域貢献活動に、部活動部員、生徒会、有志の生徒が参加し、PTA、補導員、旭警察にもご協力いただくことができたので、今後も連携を深めて行く。保護者と連絡を密に取り合う中で、保護者の要望と学校の方針をお互いによく理解し合い、今後も協力体制を維持して行く。	地域との連携を図り、ともに清掃活動ができるなど、よりよい関係を築いて行くよう、連携をより深め、情報発信も積極的に行う。保護者連絡をする際に、時期や要件によってどのような事を伝える必要があるかを、学年のみでなく学校全体で共有し、トラブルを事前に防止して行く。
5	学校管理 学校運営	①生徒にとって安全・安心な学校づくりに取り組む。 ②教職員が事故・不祥事防止に努める。	① 生徒の交通安全・防災・食生活に関する意識を向上させる。	① 授業や講演会、各種説明会、講習会、訓練等の内容や方法を工夫し、指導の充実を図る。	① 各種指導を通して、交通安全・防災・食生活に関する生徒の意識を向上させることができたか。	①地元の警察署職員を招聘し、講演を通して、交通安全に対する意識を高めた。 ①DIG訓練を通して防災意識の向上を図った。 ①車輻通学希望者に車輻通学説明会を行い、毎日の登下校指導の中で交通安全に対する声かけを行い、生徒の交通安全への意識向上を図った。	①今年度の実践内容を共有し、次年度の指導に活用し、他校の実践事例などの情報も収集し、共有する。 ①災害に備え、より効果的な訓練が実施できるよう工夫し、喫食訓練の方法等も工夫して行く。	①地域との交流は評価できる。生徒の成長にとって貴重な体験となるので、継続してほしい。 ①交通安全指導を毎日のように実施しており評価できる。交通安全は、生徒の命に係わることなので、しっかりと指導を継続してほしい。	①車輻通学希望者への車輻通学説明会や日々の登下校指導の中で、交通安全に対する指導を行った。今後も生徒の交通安全意識の向上を図り指導を継続する。 ①地元の警察署と連携し、犯罪意識啓発の講演会を行った。連携を継続して、生徒の犯罪意識の向上を図る。 ①災害に備え、災害図上(DIG)訓練と避難訓練を実施したが、内容や方法の改善について検討を継続する。	①車輻通学者の交通ルール順守について、説明会や登下校指導等を通して、粘り強く指導する。 ①交通安全や防災、防犯等について臨機応変に対応できるよう関係機関と日ごろから連携し、講演会・訓練等を実施して、より安全・安心な学校作りを継続する。